

昨年末「若葉台住民アンケート報告書」をお配りしました!

「私たちは縁あって若葉台の住民活動をお手伝いしている法政大学の学生です。若ラボというチームを組み地域社会の研究と実践を行っています。
一昨年、住民の皆様にご協力いただいたアンケートの報告書を、昨年末に全戸配布させていただきました。若葉台の立ち位置をご確認いただくと幸いです。若葉台を持続的なまちにすべく、2021年も様々な活動を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします!
(法政大学現代福祉学部保井ゼミ学生一同)

若葉台住宅地を設計した井上正良氏にインタビュー!



前列中央が井上正良氏

井上正良[イノウエマサヨシ]氏 プロフィール:

井上景観研究所主宰、NPO法人まちづくり協会顧問。1943年生まれ。1966年に東京大学建築学科を卒業後、黒川紀章建築・都市設計事務所に入社、若葉台の設計を担当。1970年に黒川氏と共に(株)アーバンデザインコンサルタントを設立し1982年から2002年まで同社代表取締役。全国各地のまちづくり計画、行政経営・景観アドバイザー等に参画、まちづくりに関する著書多数。

昨年12月23日、若葉台住宅の設計やデザインを手がけられた井上正良氏を若葉台自治会館にお招きし、当時の設計コンセプトや将来のビジョンに

ついてお話を伺いました。

もう半世紀も前の事ですが、神奈川県や城山町の協力を得ながら、本来ならば開発などできない市街化調整区域内で、理想的な形のまちを目指して団地の設計をした当時のことを、詳しく話していただきました。

このインタビューは、法政大学の学生と若葉台住宅を考える会が企画・実施を行い、当日は井上氏と林自治会長、当会の会員6名(+ZOOM参加4名)、学生5名、相模原市職員2名が参加し活発に意見を交わしました。

若葉台住宅地設計コンセプト

①ターゲット

高度経済成長期当時、郊外一戸建て住宅が買える中間層で、世帯主と専業主婦、1-2人の子どもで構成される世帯を想定。

②道の一部としての公園

各地区(〇丁目)の間に配置された公園は、「みち空間」の一部として、歩行者同士を結び付ける役割を期待。安全のため車両は通行禁止。

③高い緑地率

住民アンケートにおいても、多くの方が「緑の多さ」や「自然環境」を魅力として挙げておられ、自然と調和した景観は若葉台住宅のアイデンティティーとして高く評価されています。



当日の様子

※会場内は常に換気した状態で、感染症対策を徹底し限定された人員だけで開催。

井上氏に
お聞きした

今後の若葉台住宅に必要なこと！

①住民自治の体制強化



住民自身が自分の事として「まち」を捉え、時代やライフスタイルの変化によって生じる生活課題に向き合い、対応することができる体制づくりが必須！！

②中心地区や空き家・空き地、道空間の利用活用



開発当初に整備した生活サービス機能と、現在住民が必要な機能のミスマッチを、中心地区や空き家等を利用して解消していく！！

③転居者、移住者に選ばれる街



近年のライフスタイルやワークスタイルの変化により、都市部から郊外や地方への転居者、移住者が増えつつあります。そのような人々を惹きつけ移り住んでもらえる魅力の形成と再発見が必要！！



感染防止ブース内で講演する井上正良氏

※開発当初の設計者であり、全国まちづくりの第一人者である井上正良氏に当時の話を伺える非常に貴重な機会でしたが、新型コロナの感染防止のためにごく限られた人数しか参加出来ず、申し訳ありませんでした。住民の皆様方にはこの若葉台タイムス号外にてその内容をお知らせします。

お知らせ①

タウンミーティングを開催予定！！

日時は別途通知



若葉台の今後について、
みんなでお話しましょう～

お知らせ②

2月下旬頃

朝市にカフェが登場…？



コーヒー片手に
ちょこっと
おしゃべりしませんか？

★若葉台タイムスについて

本紙は若葉台住宅および城山地区振興のために「若葉台住宅を考える会」が作成し、若葉台住宅全戸および城山地区の主要団体に配布している手作り地域新聞です。

発行責任者： 代表 柳井正晴

若葉台住宅 HP : <https://www.sagamihara-wakabadai.com/>

